

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」浜北駅前校		
○保護者評価実施期間	令和6年 10月 15日	～	令和6年 11月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和6年 10月 21日	～	令和6年 11月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 11月 20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・当施設が多機能型という事もあり、継続的な支援を希望されるお宅からは、途切れる事無く支援を推し進める事ができる。	・一貫した支援を提供する為に、記録をより深く書いている事や、校舎内外に働きかけて様々な連携を取り、情報を共有しながら支援に落としている。	・医師とのコネクションが弱い。今後は、医師との連携も考えて事に当たりたいと考える。
2	・専門性を有している職員が多い事で、職員間での支援における意見交換が他施設より一ランク上にある。	・職員が気軽に意見を言い合えるように、児発管が極力支援に関する意見を静観するようにしている。加えて、情報の提供は行うものの「考察」における材料という形での提示に留め、皆の観察で考えを出し合う形で事に当たるよう対応している。	・社内研修会を開き、PDCAサイクルの下で「支援」の進み具合を確認できるようにしたいと考えている。(これにより、幼児期の成長過程を仮説のみで無く、実感を伴う形で学びができると同時に、研修会への資料作成の糧にもなる。)
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・支援の様子を適宜に「発信」しきれていない部分がある。(特に、遊戯訓練における様子が見えないという意見をもらっている。)	・スピーディーな形で、ブログの発信ができていない。	・役割分担の統制を今一度見直しつつ、各々が助け合いながら、適切なタイミングでのブログ発信を行うように助け合う。
2	・ワンフロアをパーテーションで区切った支援の為、適切に区切らないと、児の意識が他方面に向いてしまう。	・パーテーションの置き方を大人の見込みで行っていたかもしれない。	・パーテーションの設置方法に関しては、今後シミュレーションを介して職員間で確認をしよう必要がある。(実際において、子の視点ではどうかという検証を図っていく。)
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」浜北駅前校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数

21

回収数

13

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10	1	2	0		
	2 職員の数配置は適切であると思いますか。	12	1	0	0	・1対1で対応してくれているのでありがたいです。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	1	0	1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11	2	0	0	・他の子の先生の指示や他の子の行動が気になってしまう事が多々あった。	→今後、パーテーション等の置き方を工夫しながら、対象していきます。
適切な 支援 の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13	0	0	0	・希望を取り入れた活動をしてくれます。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12	1	0	0		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12	1	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12	1	0	0		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	1	0	0		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4	3	1	5		
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	13	0	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	13	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9	3	0	1		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	12	1	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	2	0	1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	12	1	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	2	1	6		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12	0	0	1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8	0	0	5		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11	0	0	2	・避難訓練等はされていると思いますが、子どもが参加したことが無いのでわかりません。	→月1での訓練を実施しています。ただ、今後は広く知って頂く為にも、掲示検討も考慮していきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	1	0	4	・避難訓練等はされていると思いますが、子どもが参加したことが無いのでわかりません。	→月1での訓練を実施しています。ただ、今後は広く知って頂く為にも、掲示検討も考慮していきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11	0	0	2	・避難訓練等はされていると思いますが、子どもが参加したことが無いのでわかりません。	→月1での訓練を実施しています。ただ、今後は広く知って頂く為にも、掲示検討も考慮していきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	0	0	2	・避難訓練等はされていると思いますが、子どもが参加したことが無いのでわかりません。	→月1での訓練を実施しています。ただ、今後は広く知って頂く為にも、掲示検討も考慮していきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	13	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	12	1	0	0	・やっとなれてきたばかりなので、楽しみにする段階までには達してません。	→今後、さらに楽しみが感じられるように、楽しい支援をいっぱい用意していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	12	1	0	0		

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」浜北駅前校		公表日	2025年 2月 15日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		・パーテーションを活用し、利用児の状態、活動の内容を考えながら適切なスペースの下で運営を行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		・法令で必要とされる配置数され、目つ加配を想定した職員配置で対応している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・段差は耐く移動できるように取り計らうと同時に、視覚化を取り入れ、活動まで向かう流れを分かりやすく提示している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・活動の内容（運動などに舵を切る時）を広げる際は、環境構成を再構築する等、状況の合わせて変化をつけながら対応に当たっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・面談室等の静謐なスペースを設け、クールダウンや相談等が出来る環境を整えながら対応に当たっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		・PDCAサイクルに関しては、職員間の申し送りを通して、振り返りを行い、その情報を持って各位の支援に生かそうと断一室に取り組んでいる。(各職員間で声を掛け合い、頻繁な情報確認もある。)	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・現在は評価集計を提示しながら「見える化」の下、保護者からの意見を受けて改善に努めるよう努力している。(相談の時間も設けるようにしている。)	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・朝礼において職員間の報告を密にししながら意見の交換を行い、各位の欠けている部分を補充したり、業務の改善を図っている。(朝礼以外の時間にも各位職員間で意見を出し合っている。)	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1	・第三者における外部評価はしていないが、静岡県エリアにおける管理官が交互にチェックに入り、厳しいチェックの下で確認業務を行うよう取り組んでいる。(追加での確認も再。)	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	・社会研修等を行い、目つ市からの情報やリタリコ等の情報を活として研修参加をはかっている。(浜松市内の発達連絡会にも参加している。)	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		・支援プログラムに関しては5領域をベースに活用し、適宜にプログラムへ落とし込みながら支援を行っている。(放デイ同様)	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		・アセスメントでは療養さんの判断に加えて、児発管や他職員も計画作成に際し分析し直し、その下で計画を作るよう対応している。(専門的支援実施計画も同様)	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・個別支援計画を作成後、周知確認という観点から、個別支援会議を設けて確認の場を設けている。その上で本業の作成に尽力している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・13項同様。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・基本情報は市独自のシートを活用する一方、アセスメントでも当社が用いるインフォーマルなものも活用している。(正しく数値化できるものを使って記録を行って評価される。)	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・5領域に加えて、左記の支援を追加した計画要素を取り入れて支援がなされている。(また、年齢に応じながら、大事とされる部分を分析し、左記の支援の内容促進の為、園や学校訪問にも尽力している。)	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		・朝礼時での申し送りに、その日々のプログラムの状態を常に話し合っており、アセスメントや過去のモニタリングの読み直しも職員全体で確認しながら、職員みんなで意見を高め立案を進めている。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6			・上記同様、朝礼等での振り返りの下、被らないように配慮している。(児の成長に合わせた形での支援を迫るので、被りは起こりえない。)	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			・時間を調整して、個別と集団との時間を切り合いながら、各位が両方の支援対応を適度に連携し合っているようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			・項目19の解答と同様	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			・支援後ではないが、次の日の朝礼で確認するよう取り計らっている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			・記録は2日以内に完成させ、次回支援に入る職員にきちんと参考となり得るような記録がなされている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			・概ね6ヶ月を基盤として、モニタリングを進めつつ、計画作成を材料にしながら次回計画を作成している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			・サービス担当者会議では、児発費だけでなく、指導員の参加も見えるよう必ず配慮し対応へ当たる(Zoomなどの活用もして、参画を怠らないようにしている。)	
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			・医師との連携は相談支援事業所を介して行っている為、適宜に行っている様子は悪い。但し、関係機関との連携は常にとるように(教育現場も含めて)行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1		・各園に関しては、こちらから赴いたり、こちらへ訪問して頂いたりと適宜な関係が築けている。(結果は連携には児発費ばかりで無く、各指導員等も意見を述べて情報共有に尽力を盡している。)	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			・連携に関する報告会は、「かけはし」という浜松特児の書式を活用しながら就学するお子様へは対応がされている。	
	28	(28~30は、センターのみ回答)					
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外都研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)					
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	1		・センターに関しては、サービス担当者会議での連携を持って対応に当たっている。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	2		・園における訪問は職員間のみの為、やや取り組みとしては深い。但し、他のテナントの施設とは連携を密にしており、イベントのお誘いも受けている。	・職員間の交流は為されている反面、地域との交流(子ども会や近隣こども園等)のつながりは、複数園との話し合いがなされていないために滞っている。今後、必要性を確認した上で決を取りたい。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			・撮影機にはフィードバックを介して、当日行った計画の進捗やその様子、今後の課題を伝える等、常に共通認識を図っている。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1		・ファミリーカフェを介して、学びの場を継続的に提供するようにしている。加えて、用との話し合いの場ではペアレントの一部を活用できるように話をし、家庭支援の一貫としている。	・今後は、ご家庭へお話を伺った上で「ペアレントトレーニング」の開催機会を検討していく。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			・契約時にはすべての項を説明をする一方で、提示や公開も行ってあり、常に見える化にも対応している。また、随時の説明対応できるように児発費が役割に当たっている。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			・サービス等利用計画を参照しつつ、モニタリングでは親御さんへ再度主訴の部分を確認しながら、その主訴に近づけるように5領域を介して改善に繋げる説明を行うようにしている。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		・計画説明に関しては、ご家庭の主治を振りながら、5領域との関係性と主治に寄り添うための改善を図ってサインをもらうように対応している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・子育ての相談には、児童発達支援管理責任者や経験の深い職員が親御様の困り事を聞く一方、支援に落とすようにもしながら、最終的にフィードバックでその辺りの不安感のなまを高く支援している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2	・保護者会の活動は行えていない。ただ、ファミリーカフェ等を紹介して、交わりの機会を作りながら、交流への機会作りには尽力している。	・今後は就学前などに保護者会などを行って、親御様同士の横のつながりを築いていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		・相談は早朝での受け入れで対応している。また朝礼での申し送りの中で、不安等が見られる親御さんに関しては様子を確認するとともに、児発費からも声掛け（相談）をするようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	1	・ブログを介して、校舎情報が届くようにしている。また、Line等の活用も行い、校舎情報を発信するように心がけている。	・ブログ等での配信はされているが、会報作成は現在無く、ブログでの発信に終始している。今後より浜北駅前校の良さが伝わるよう「発信方法」を見直す。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		・個人情報保護に重視する意識への説明は契約時には適切に行い、その上でブログ等ではお子様の顔や不参加希望の意向を必ず尊重して事に当たるよう対応している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		・現在は障害を有する方は見られない。ただ、外国籍の方にも分かるような簡略した言葉での話し方は、常に意識して行うよう対応している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2	・テナント同士であいさつを行う一方、共催イベントやテナント全体で行う防災訓練に参加させて貰いながら他機関協力の下で運営がなされている。	・主催という立場での共同企画はなされていない。今後はその辺りの計画を練る等の必要はある。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		左記のマニュアルはすべて策定されており、玄関前に提示し、親御様や職員にも見える化を図っている。（定期訓練は月一で訓練の内容を策定した対応に当たっている。）	・訓練の実施はあるものの、ご家庭への周知が不十分な点を指摘されているので、今後は掲示等も検討し、「発信」をより深めていきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		・BCPの策定は確立されており、BCPにおける定期見直しも確認を含めて年内度内で取り行っている。（改定時は確認の下で対応に当たっている。）加え、1ヶ月に1度避難訓練も行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		・アセスメント・基本情報からの確認と面談時における状態での確認で留めている。（落ち書きのない様子を支援した際は、親御様や相談支援事業所との確認にも力を入れている。）	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	・アセスメント・基本情報からの確認と面談時における状態での確認で留めている。（基本食べ物を与えていない。このような形に終始している。）	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		・計画の作成は玄関前にある運営規定等で周知できるよう取り計らっている。（定期チェック等を中心掛ける一方で、現場構成の部分で日々対応に当たっている。）	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		・安全計画に関しても、室内の危険等を振り返りするよう朝礼の備考で言い合ったり、定期的な確認（テナント管理会社へ提出）を行っている。（親御様には重視での説明で対応している。）	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		・ヒヤリハットが上がった際は、全体で共有する一方で、再発防止の案も出し合いながら、再発防止に努めている。（虐待・身体拘束委員が、その都度確認を行うように対応している。）	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		・月一で虐待における認識の確認を進める一方、委員は外部研修の参加を促しつつ、その内容を各職員に落としながら説明するなど、適宜に内外問わずに研修を進めている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		・重要事項説明書を通じて、一連の内容を説明し、計画へ取り入れるよう対応している。（記載箇所も有。）	